

令和2年度実施施策に係る政策評価書

別紙2

(環境省R2-28)

施策名	目標5-7 国際観光資源の整備					
施策の概要	美しい国立公園等の自然を持続的に活用し観光資源の整備等により、国内外の旅行者の地域での体験滞在の満足度の向上を図る。					
達成すべき目標	平成28年3月に策定された「明日の日本を支える観光ビジョン」に掲げる2020年国立公園訪日外国人利用者数1000万人の目標を達成し、「観光先進国」の実現に貢献する。					
施策の予算額・執行額等	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況(百万円)	当初予算(a)	-	5,080	6,862	4,962
		補正予算(b)	-	0	0	-
		繰越し等(c)	-	▲2,731	(※記入は任意)	
		合計(a+b+c)	-	2,349	(※記入は任意)	
	執行額(百万円)	-	1,682	(※記入は任意)		
施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	観光ビジョン実現プログラム2019					

測定指標	項目	基準値	実績値					目標値	達成
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R7年度	
国立公園訪日外国人利用者数		490万人	564万人	600万人	694万人	667万人	93万人	667万人	-
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	設定不能		
滞在環境の上質化に取り組んだ国立公園の利用拠点数		-	-	-	-	6拠点	14拠点	10拠点	○
	年度ごとの目標値		-	-	-	5拠点	10拠点		
利用施設の多言語化		-	-	-	5施設	18施設	44施設	40施設	○
	年度ごとの目標値		-	-	8施設	24施設	40施設		
野生動物観光促進事業の実施者数		-	-	-	-	12者	8者	10者	×
	年度ごとの目標値		-	-	-	10者	10者		
一般公開に向けた改善に取り組んだ野生生物保護センター数		-	-	-	-	2施設	3施設	3施設	○
	年度ごとの目標値		-	-	-	1施設	3施設		
ビジターセンター等機能強化		-	-	-	-	33施設	49施設	60施設	×
	年度ごとの目標値		-	-	-	32施設	60施設		
国立公園一括情報サイトの訪問回数等(接触媒体者数)		-	-	-	-	117万	19万	180万	×
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	180万		
国立公園におけるグランピング等推進事業にて開発したグランピング件数		-	-	-	-	-	11施設	8施設	○
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	8施設		
国立公園における地場産品等の提供促進事業にて開発した地場産品コンテンツ件数		-	-	-	-	-	6件	16件	×
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	16件		
国立公園にて実施されたナイトタイムコンテンツ件数		-	-	-	-	-	16件	20件	×
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	20件		

評価結果	目標達成度合いの測定結果	(各行政機関共通区分) 相当程度進展あり (判断根拠) 目標であった国立公園訪日外国人利用者数について、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大により外国人観光客の入国制限がなされたため、目標値を設定不能としており、評価を行うことができなくなった。 一方で、滞在環境の上質化に取り組んだ国立公園の利用拠点数、利用施設の多言語化、一般公開に向けた改善に取り組んだ野生生物保護センター数、国立公園におけるグランピング等推進事業にて開発したグランピング件数について、令和2年度実績値は、目標値を超えるペースで増加しており、受入環境整備が進展している。その他の取組についても目標値達成まで到達していないが、着実に実績が出ており、受入環境整備に貢献している。
	施策の分析	目標であった国立公園訪日外国人利用者数について、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大により外国人観光客の入国制限が強化され、日本全体で対2019年度比99%減少するなど想定できない事態が生じた。同様に、海外からの誘客が困難な状況となったため、国立公園一括情報サイトへの積極的なプロモーションを中止(今年度繰越)したため、実績値が低くなった。 野生動物観光やグランピング等のコンテンツ造成、多言語化や利用拠点の上質化、ビジターセンターの機能強化などは、我が国ならではの特色を有する国立公園や野生動物の魅力を感じて質の高いツーリズムを提供するにあたって必要な受入環境を整備するものであり、「観光先進国」の実現に必要なものであることから、引き続き実施し、回復期に向けた取組を進めることが必要である。さらに、今後の回復に向けて、国立公園一括情報サイト等を通じた国立公園の魅力の情報発信により、状況を踏まえながら誘客を行っていくことが必要である。
	次期目標等への反映の方向性	【施策】 新型コロナウイルスの影響により、国内外の利用者数が大幅に減少し、観光事業者に大きな打撃が生じている。国立公園の関係事業者の事業継続と雇用維持を支援し、これまでインバウンド中心だった国立公園満喫プロジェクトについて、国内利用を重視した展開をはかる。なお、2021年以降の訪日外国人利用者数の目標設定については、2025年までに訪日外国人の国立公園利用者数を新型コロナウイルスの影響前に回復させることとし、平成28年3月に策定された「明日の日本を支える観光ビジョン」に掲げる2030年訪日外国人旅行者数6,000万人等の目標と「観光先進国」の実現に貢献することとする。 <野生動物観光、グランピング、地場産品コンテンツ、ナイトタイムコンテンツ> これらのテーマを含む滞在型観光コンテンツの創出に向けて、地域一帯となった効果的なコンテンツ提供の検討や体制整備を進めるため、地域のストーリー等を踏まえた統一的なブランディングに係る計画策定や体験フィールドの環境整備、人材育成等の取組について、地方公共団体等への支援を含め、取組を推進する。 <滞在環境の上質化に取り組んだ国立公園の利用拠点数、利用施設の多言語化> これらの施設整備等には期間を要するものもあり、引き続き着実に取組を推進する。 <国立公園一括情報サイト> 外国人観光客の入国制限が緩和した際、日本の国立公園に来訪いただけるよう、これまでのデジタルマーケティングや新型コロナウイルスの状況等踏まえながら、国立公園情報一括サイトを中心とした戦略的なプロモーションを実施する。 【測定指標】 <国立公園訪日外国人利用者数> 今年度の外国人観光客の入国については現時点で見通せないが、状況が整い次第、段階的な回復を目指す。 <国立公園区域内日本人のべ宿泊者数> マイクロツーリズムや観光旅行以外の利用の展開を進め、国内利用者の滞在時間増加を目指す。 <滞在環境の上質化に取り組んだ国立公園の利用拠点数、利用施設の多言語化、ビジターセンター等機能強化、国立公園一括情報サイトの訪問回数等> R2年度までの取組状況を踏まえ、R3年度もR2までと同程度の目標を設定して取組を進める。 <グランピング、地場産品、ナイトタイムコンテンツ> R3年度から滞在型観光コンテンツ創出事業を実施するためR2年度で目標を廃止する。R3年度も引き続き観光コンテンツ創出の取組を進める。

学識経験を有する者の知見の活用	国立公園満喫プロジェクト有識者会議において、取組内容について報告するとともに、出された意見を施策に反映している。
-----------------	--

政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	国立公園訪日外国人利用者数推計値
---------------------------	------------------

担当部局名	自然環境局 国立公園課 国立公園利用推進室 自然環境整備課 野生生物課	作成責任者名	熊倉基之(国立公園課長) 岡野隆宏(国立公園利用推進室長) 佐藤邦雄(自然環境整備課長) 中尾文子(野生生物課長)	政策評価実施時期	令和3年8月
-------	---	--------	--	----------	--------